

石炭：湿原からの天然資源

釧路炭田は、約 3,800 万年前に、釧路一帯の豊富な泥炭から形成されました。泥炭は湿原・沼地で形成されます。水気が多い環境と気温の低さにより、枯れた植物が完全には分解されない場合に、泥炭ができます。これらの分解しかけた植物の層が、ゆっくりと泥炭になります。その後、数千年をかけて、積み重なった層の重みで泥炭が圧縮され、徐々に化石化して石炭になります。釧路湿原には、日本最大の泥炭地があります。ここで見られる泥炭は、いつか石炭になるかもしれません。

釧路炭田には 10 を超える炭層（採掘に十分な厚みのある石炭の層）があり、各層の厚みは 5 メートルに達します。これらの炭層は、釧路市の東に位置し、海底の下に広がっています。釧路の石炭は、1920 年に大規模な採炭が始まって以来、収入と雇用の主な源であり続けており、この地域の発展に貢献してきました。かつて、釧路の太平洋炭礦は、日本最大級の炭鉱でした。現在は、釧路コールマイン社が、日本で唯一となった坑内掘り炭鉱で操業を続けています。同社は、年に約 30 万トンの石炭を生産しています。